

地方公共団体名: 岡山県笠岡市

○提案内容

(1) 実現したい島のビジョン・方向性	
<p><b>ビジョン 「いつまでも安心して住み続けることができる笠岡諸島」</b></p> <p>笠岡諸島は、岡山県の南西端の笠岡市沖にあり、瀬戸内海のほぼ中心に位置する。大小30余りの島々からなり、その内の高島、白石島、北木島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島の7島が有人島である。</p> <p>伝統的な祭事なども残っており、歴史的な面でも多様な遺跡、文化、伝統などがそれぞれの島の大きな特徴となっている。特に「白石踊」は国指定重要無形民族文化財に指定されている。</p> <p>令和元年5月には、笠岡市、丸亀市、小豆島町、土庄町の2市2町により共同申請していた「知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島～海を越え、日本の礎を築いたせとうち備讃諸島～」が日本遺産認定された。4市町の構成文化財は45件で、笠岡諸島からは、北木石の丁場(石切り場)、旧映画館「光劇場」、大飛島遺跡など11件が組み込まれている。</p> <p>基幹産業は、かつては石材業、漁業、観光業などが盛んだったが、現在はどれも衰退傾向にある。</p> <p>笠岡諸島の人口は、昭和35年には1万1千人を超えていたが、大きく減少しており、現在は1,600人となっている。また、高齢化率は69.3%と笠岡市全体の高齢化率36.5%に比べてかなり高くなっている。(令和2年1月1日現在住民基本台帳)</p> <p>このような状況の中、島民、民間団体、行政との協働を通じて地域コミュニティの継続的な維持を図りつつ、災害時対策、医療体制の充実、イノシシ駆除対策、職場環境の整備等に取り組み、SDGsの目標である「住み続けられるまちづくりを」目指し、島で生まれ島で育った方々がいつまでも安心して住み続けることができる環境を実現する必要がある。</p>	
(2) 新技術の導入により解決したい離島の課題	
<p>笠岡諸島は、かつては石材業をはじめ島内の産業が盛んで、娯楽施設も営業するなど島内で経済が循環し生活が成り立っていた。しかし、次第に島内で経済がなりたたなくなり、一部離島といった陸地部に近い環境のため、島の人が陸地部に移り住みやすいこともあり、大幅に人口が減少した。その結果、子どもがいなくなり小中学校が廃校や休校になった島もあり、また人がいないことにより島へ渡る船の便数も大幅に減るといった悪循環に陥っている。高齢化が進行しても、いつまでも暮らせる環境づくりを進めなければならない。</p> <p><b>課題①</b> 津波や地震などの大型災害などが発生した際、港の崩壊や災害ゴミのため、船を港につけることができず、長期間孤立してしまう恐れがある。 そこで、災害時でも安定した物資を提供できるように環境を整える必要がある。 また、長期間生活することになる避難所においても通信網の確保が必要である。</p> <p><b>課題②</b> 島内の診療所には、陸地部から医師が通い、島には常駐医師がおらず、月に2回しか受診できない島もある。さらに海が荒れた時には医師が島に行けず受診できなくなる。</p> <p><b>課題③</b> 人口減少に伴い農地が荒れ、イノシシの増加による被害が深刻である。 笠岡諸島には単身高齢者が多く、「イノシシが怖くて外を出歩けない」、「家庭菜園をしても荒らされるから辞めた」といった島民も多く、高齢者が一人で家にいる時間が長くなり、安否確認が遅れたり、認知症の増加につながるという課題がある。</p> <p><b>課題④</b> 島嶼部では働く場所がほとんどなく、若者が島から出ていってしまう。 また、島嶼部の無線インターネットサービスが令和3年3月31日で終了となる。 そこで、テレワーク等に対応できるように環境を整える必要がある。</p> <p><b>課題⑤</b> 島嶼部の救急患者の搬送は、最寄りの港まで地元消防団の方が対応している。 しかし、消防団の方も高齢化(平均年齢60代後半)しており、車も通れない場所が多く搬送が困難になっている。</p>	<p style="text-align: center;"><b>課題の分類</b></p> <p>下記のうち、該当するものを○で囲んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通・モビリティ</li> <li>エネルギー</li> <li>物流</li> <li>防災</li> <li>観光</li> <li>教育</li> <li>健康・医療</li> <li>環境</li> <li>産業</li> <li>担い手確保・人材育成</li> <li>その他</li> </ul>

### (3) 新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)

#### 課題①の解決策

災害時での通信網を確保するため、避難所に公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備を行う。併せて太陽光発電と蓄電池システムの整備を行う。

また、ドローンによる緊急物資の配送を行う。

#### 課題②の解決策

船が欠航して医師が島に行けない時には、ICTを用いた遠隔診療により、島の患者が受診できるようにする。

#### 課題③の解決策

固定カメラやドローンを用いて、イノシシの生息域や活動状況の調査を行う。状況把握を行った後、イノシシを捕獲するための罠の設置や超音波等により害獣被害を減らす対策を行う。

また、単身高齢者がトイレのライトを付けると、AIスピーカーが会話をし、サーモセンサーで体温を測ることにより、体調の異常や認知症を早期に発見し、親族等に通報するシステムの整備を行う。

#### 課題④の解決策

ローカル5G環境の整備を行う。

#### 課題⑤の解決策

狭隘な道でも自動運転による搬送ができるシステムの整備を行う。

### (4) その他

#### ○参考

・笠岡諸島イノシシ捕獲数80頭以上(2019年4月～2020年2月末現在)

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

#### ○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
政策部企画政策課	大岸 憲司	0865-68-2004	<a href="mailto:kikakuseisaku@city.kasaoka.lg.jp">kikakuseisaku@city.kasaoka.lg.jp</a>